

平成30年度

学校経営計画年度末評価



広島県尾道南高等学校

目 次

平成 30 年度自己評価シート(年度末評価)……………1

平成 30 年度自己評価シート(年度末評価まとめ)……………4

平成 30 年度学校関係者評価シート(年度末評価)……………5

平成 30 年度自己評価シート(年度末評価)

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	宮崎 了昭	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	-------	-----	----

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
1 学びの変革を推進し、生徒の多様な実態に対応しながら、基礎的・基本的な知識や技能を育成するとともに、生徒が主体的に活動し、思考力・判断力・表現力を高めることができる。							
生徒が見通しを持って主体的に学習しようとする意欲や態度を育てる授業を行う。	生徒の授業満足度 (アンケートの項目を平成 30 年度より改める)	77%	70% (新規)	68%	A	○目標値をほぼ達成した。	教務
体験学習を通して、他者と協働的に取り組む態度を育てるとともに、自己理解を深めさせる。	体験学習の肯定的評価	63%	68%	44%	B	○目標値を下回った。	教務
個別の合理的配慮を考慮し、生徒の共通理解に努め、組織的・統一的に支援の充実を図る。	(1) 生徒の自己肯定感の高揚 (キャリアノートより分析) (2) 教職員の生徒理解・教育的支援の達成度 (生徒理解アンケートより分析) (3) 合理的配慮が必要な生徒の家庭・関係機関との連携の割合	(1)生徒 77%	(1)生徒 77%	(1)生徒 67%	B	○教職員の生徒理解・教育的支援の達成度が大きく下回った。 ○その他の二つの評価指標については、目標をやや下回り、達成することができなかった。	特 別 支 援
	(2)教職員 80%	(2)教職員 80%	(2)教職員 57.1%				
	(3) 100%	(3) 100%	(3) 83.3%				

【評価結果の分析】

○教育的な支援の観点に立った授業については共通認識されており、授業内容への興味関心や、教材の取組みやすさなどでは肯定的評価を得ている。しかし、学習への自信や、自ら進んで学習に取り組むなど、自己肯定感や積極性に関する項目の評価は低かった。
 ○大豆づくりに興味を持って参加できている生徒が少なかった。種まき、収穫、脱粒、加工という一連の流れをすべて体験できている生徒が少ないので、このような結果になったと考える。
 ○生徒のキャリアノートから自己肯定感の高揚は前年度より 10 ポイント下がっている。教職員ではクラスや授業を担当するクラスの中に教育的な支援が必要な生徒がいるという認識並びに、教育的な支援が必要だという認識は 100%であるが、支援を要する点への把握や手立ては 57.1%であった。

【今後の改善方針】

○各授業においてどのような支援が必要か、生徒の主体的な学習につながっているか、達成感・充実感が得られるものになっているかという視点を持ち、特別支援教育支援員・教科アシスタントとの連携を持った授業を行い、より一層の工夫、試みが必要である。
 ○実施前に体験学習の内容、流れを説明する時間を十分に取、参加率の向上を図り、体験活動を行う必要がある。また、生徒が興味関心を持って参加できるよう、実施の順番の変更を検討するなど、さらなる工夫が必要である。
 ○教育的な支援を必要とする生徒に向けて医療機関・福祉機関・就労支援等の関係機関との連携は必要だと感じているという教職員のアンケートは 92.8%であり、保護者と生徒の困難性や特性を共有できているが 71.4%である。個別具体的な合理的配慮と組織的な取り組みを再構築していく必要がある。

2 キャリア教育を充実させ、一人一人の社会的・職業的な自立に向けて、社会人として必要な能力・技能や態度を育てる。							
自己理解・他者理解を深め、自己肯定感の高揚を図る。	キャリア教育関係のホームルームの実施回数	4回	4回	4回	B	○キャリア教育ワークシートを2回実施した。(1回目 82%, 2回目 80% 提出率) ○キャリア教育講演会及び生活体験文を実施した。(88%提出率)	進路

社会的・職業的自立を達成するための進路・職業選択、自己決定に関わる諸能力の形成を目指す。	就労体験活動の実施回数	8回	5回	4回	B	○ジョブシャドウイング・インターンシップ、個別の職場見学を実施した。 ○生徒の就労率は72%であった。	進路
--	-------------	----	----	----	----------	--	----

【評価結果の分析】

○2回のキャリア教育ワークシート・キャリア教育講演会及び生活体験文の実施により、生徒が自分を見つめ直したり、教職員が生徒の課題や成長を把握したりすることにつながった。日常の中にもどのようにつながっていくかという課題がある。

○ジョブシャドウイング・インターンシップは受け入れ先の新規事業所を開拓し、選択肢を広げることにつながった。また、日報・評価シートの記入を取り入れ、仕事をする上での自分をより具体的に見直すことにつながった。

○関係機関との連携により、個々の生徒に合わせた進路実現につながる事ができた。

【今後の改善方策】

○生徒の進路を確定するために、本人や保護者の思いを深く聞き取りつかむとともに、事業所やハローワーク・関係諸機関との連携を図り、新規事業所の開拓に努め、ネットワークを広げていく。

○社会参加や就労に不安を感じている生徒の不安感を日常的につかみ、課題の解決に向けて働きかけていく。最も困難性を抱えている生徒の課題を解決することが、すべての生徒に好影響を与えるという観点に立ち、個別具体的な困難性に着目して支援をしていく必要がある。

○様々な社会参加のスタイルを踏まえ、『自立』や『社会参加』に対する柔軟な発想を持つとともに、様々な生き方のモデルを把握し、提示できるような組織的な体制づくりをすすめる。

3 危機管理を徹底し、生徒に自己肯定感を持たせるとともに、自己教育力、豊かな人間性を育て、安心して学べる。							
集団や社会の一員としての自己実現を達成するために、指導方針を明確にすると共に、ルールを明示し、生徒一人一人への理解と支援のための取組を講ずる。	休学者(復学者含む)及び中途退学者数の在籍生徒数に対する割合	17%	20%未滿	16%	A	○目標値を達成した。	生徒指導
生徒会活動や地域貢献活動等を通して、仲間と共にパフォーマンスを高め合おうとする態度を育て、社会人としてのスキルアップを図る。	生徒会行事等への参加率	66%	66%	63%	B	○ほぼ目標値となった。	生徒指導
自他の命や人権を尊重するとともに、学校安全体制の整備を推進する。	学校生活改善アンケート「安心安全度」	生徒 68.3% 保護者 96.6%	生徒 72% 保護者 93%	生徒 66.5% 保護者 92.3%	B	○生徒の安心安全度は、目標値より5.5%低かった。 ○保護者の安心安全度は、目標値をほぼ達成した。	総務保健
	学校安全点検などの実施	新規	11回	11回	A	○目標回数を実施した。	

【評価結果の分析】

○休学者及び退学者の割合で目標値を達成したが、限りなくゼロに近づけるべきものである。

○生徒会行事や地域貢献活動等への参加率は、ボランティア清掃が25%の参加率と低調であった。

○アンケートの生徒集約では、「学校では安心して過ごせていますか?」の質問に、69.6%(1回目)、63.3%(2回目)、66.5%(平均)という結果であった。また、保護者の集約では、「学校に子どもを安心して通わせることができますか?」の質問に、92.5%(1回目)、92.8%(2回目)となり、大部分の保護者が肯定的に考えている結果であった。

○校内安全点検の実施については、教職員の協力のもと、チェックリストに記入後、係に提出してもらう形で、毎月月初めに実施ができた。

【今後の改善方策】

○生徒が自己実現を達成する手立てとして統一的な指導を行う。

○ボランティア清掃は生徒の就労状況等により多くの参加は望めないが、生徒への呼びかけを工夫し継続して取り組む方針である。他の行事を生徒と一体となって作る事に重点を置く。

○生徒のアンケート提出率は、1回目が90.2%、第2回目が98.5%と向上した。保護者の提出率は第1回が93.0%、第2回目が52.8%となり、提出率が下がった。2回目については、3学期にも生徒を通じて保護者へ提出の協力を依頼したり、直接電話をかけたたりしたが、なかなか上がらなかった。やれることはやっている状況であるが、次年度も、どのようにして提出率を上げるかが課題である。

4 開かれた学校づくりを進め、家庭や保護者と課題を共有し、地域や関係機関の協力を得て、生徒の可能性を伸ばすための教育活動を共に行う。							
家庭、地域、関係機関に向けて学校情報を発信する。	ホームページの更新回数	40回	24回	35回	A	○目標値の更新回数を大きく上回ることができた。	総務保健

【評価結果の分析】

○目標回数を大きく上回った。担当者を中心に声掛け等しながら作成にあたれるようになったことが、この成果に繋がっていると考える。

【今後の改善方策】

○更新について、担当者が交代しても、ある程度のホームページ更新ができるように、引き続き、複数人が担当できるように考察する必要がある。また、更新ができるパソコンが限られているので、更新ができるパソコンを増やす等、さらなる検討が必要である。

5 業務の役割分担・適正化が着実に進められ、学校における働き方改革が実現されている。							
業務改善を推進することで、職員の超過勤務の時間数を縮減する。	月ごとの個人の超過勤務時間が80時間以上	新規	0人	0.3人	A	○80時間を超える職員もいたが、概ね時間数を守ることができた。	管理職

【評価結果の分析】

○「働き方改革」の意識が徐々に浸透してきている。定時退校日や生徒の休業期間のルールがしっかりと守られてきた。

【今後の改善方策】

○行事や考査がある時期に、どうしても超過勤務が増える傾向がある。事前に取り組んで早め早めに業務を行うことが望ましいので、このことが実践できるよう学校全体で取り組んでいくことが必要である。

平成30年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	宮崎 了昭	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	-------	-----	----

1 評価結果の分析

(1) 成果

- 教育的な支援の観点に立った授業は共通認識されており、授業内容への興味関心や、教材の取組みやすさなどは肯定的評価を得られた。
- 2回のキャリア教育ワークシート・キャリア教育講演会及び生活体験文の実施により、生徒が自分を見つめ直したり、教職員が生徒の課題や成長を把握したりすることにつながることができた。
- ジョブシャドウイング・インターンシップは受け入れ先の新規事業所を開拓し、選択肢を広げることにつながった。また、日報・評価シートの記入を取り入れ、仕事をする上での自分をより具体的に見直すことができるようになった。
- 関係機関との連携により、個々の生徒に合わせた進路実現につながることができた。
- 休学者及び退学者の割合で目標値を達成することができた。
- アンケートの生徒集約では、「学校では安心して過ごせていますか?」の質問に、69.6%(1回目)、63.3%(2回目)、66.5%(平均)という結果であった。また、保護者の集約では、「学校に子どもを安心して通わせることができますか?」の質問に、92.5%(1回目)、92.8%(2回目)となり、大部分の保護者が肯定的に考えている結果であった。
- 校内安全点検の実施については、教職員の協力のもと、チェックリストに記入後、係に提出してもらう形で、毎月月初めに実施ができた。
- 担当者を中心に声掛け等しながらホームページの作成にあたるようになったことで、更新の回数が増加した。
- 「働き方改革」の意識が徐々に浸透してきている。定時退校日や生徒の休業期間のルールがしっかりと守られてきた。

(2) 課題

- 各授業においてどのような支援が必要か、生徒の主体的な学習につながっているか、生徒が達成感・充実感が得られるものになっているかという視点を持ち、特別支援教育支援員・教科アシスタントとの連携を持った授業を行うなど、授業に工夫を施すことが課題である。
- 大豆づくりに興味を持って参加できている生徒が少なかった。種まき、収穫、脱粒、加工という一連の流れをすべて体験できている生徒が少ないことが課題である。
- 教育的な支援を必要とする生徒に向けて、個別具体的な合理的配慮と組織的な取組みを早急に再構築していく必要がある。
- 生徒の進路を確定するために、本人や保護者の思いを深く聞き取りつかむとともに、事業所やハローワーク・関係諸機関との連携を図り、新規事業所の開拓に努め、ネットワークを広げていく必要がある。
- 保護者アンケートの提出率は第1回が93.0%、第2回目が52.8%であった。次年度、どのようにして提出率をあげるかが課題である。
- 行事や考査がある時期に、どうしても超過勤務が増える傾向がある。事前に取組んで早め早めに業務を行うことが望ましいので、このことが実践できるよう学校全体で取組んでいくことが必要である。

2 今後の改善方策

- 実施前に体験学習の内容、流れを説明する時間を十分に取し、参加率の向上を図り、体験活動を実施する。
- 生徒が体験学習に興味関心を持って参加できるよう、実施の順番の変更を検討するなど、さらなる取組の工夫を実施する。
- 教育的な支援を必要とする生徒に向けて医療機関・福祉機関・就労支援等の関係機関との連携を図り、保護者と生徒の困難性や特性を共有できる取組を、組織的に行っていく。
- 最も困難性を抱えている生徒の課題を解決することが、すべての生徒に好影響を与えるという観点に立ち、個別具体的な困難性に着目して支援をしていく行内体制を整える。
- ボランティア清掃等、生徒の就労状況等により多くの参加が望めない行事がある。しかし、生徒への呼びかけを工夫し継続して取組むことで、行事の活性化を図る。また、生徒と一体となって行事を作る事に重点を置き、生徒の主体的な活動を推進していく。
- ホームページの更新は担当者が交代しても、スムーズに更新できるよう、引き継、複数人が担当できる人材育成と体制づくりに努める。
- 年間行事計画や全ての校務を早めに計画し、周知することで、職員の気持ちにゆとりを持たせて働き方改革を推進していく。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- 新聞に取り上げられるような教育活動を実施することで、生徒が自信と誇りを身に付けたり、南高の存在を社会に認知してもらえたりするようになるのではないかと考えるので、積極的に考えて実践していく必要がある。
- 必要な情報が保護者に届いていない。こうした連携がうまくできていなければ、学校と保護者が一体となって活動することが難しい。紙面やインターネットの活用を改善していく必要がある。保護者との信頼関係を構築することが大切である。
- アンケートの活用が充分に行われていない。できたかできなかったではなく、できなかった生徒が3割いたら、なぜそれができないのかをさらに追及するような取組が必要で、その取組が達成目標や評価指標に反映する必要がある。
- 全日制でもなく、通信制でもない、定時制にしかできない教育活動を考えていく必要がある。
- コミュニケーション能力の向上を図る取組が必要である。

平成30年度学校関係者評価シート(年度末評価)

平成31年3月27日

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	宮崎了昭	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	------	-----	----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・とりわけ評価指標としての休学者の設定が現実的であると思います。 ・尾道南高校の特性や役割を認識されて適切に目標を立てられていると思います。ただし、新しい学校経営計画に基づいた評価の場合、単純に満足度や行事への参加率のパーセントをあげるだけでなく、満足度が低かった人や行事に出られなかった人に対して、どのようなフォローができたかという視点を持っていただきたいと思います。例えば、満足できなかった人に対しては保護者を含めた面談を100%行う、行事に参加できなかった人は、代わりに90%が〇〇を行い、個別の地域貢献を体験するなどが良いと考えます。 ・指標を数値化し評価の客観性を担保することが求められています。しかし、本校のように生徒数も少なく、生徒の年齢にも幅がある実態を勘案すれば、数値を追うだけでなく、生徒の実感とか保護者の意見、また、指導した教職員の手ごたえなどを指標に用いることが適切であると思います。
目標の達成状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・設定をクリアすることができていることは評価できると考えます。 ・今回の目標値に対する実績値の評価は適切でした。 ・生徒や保護者へのアンケートの積極的に取組むことになって、学校運営に対する保護者の理解と参画を図っていることは適切であると考えます。 ・開かれた学校づくりを推進するのにふさわしい評価であると思います。
目標達成に向けた取組の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・以前に比べて、文化祭などの行事が減っていると感じます。多様な生徒に対して、それぞれにあった対応をするためには、定時制高校ならではの活動やフォローが必要だと思います。 ・平成30年度学校経営計画をみますと、前向きで力強いビジョンが書かれています。もちろんそれは大切ですが、尾道南高校を選んだ生徒はそれぞれ何らかの課題があるはずで、それでも、進学を諦めたり、通信制高校に行ったりではなく、夜間定時制を選んだのですから、その気持ちに学校は答える必要があると思います。 ・生徒自身の苦手なところや家庭の事情などの困難を理解し、教員が一丸となってやさしく寄り添うような取り組みをお願いいたします。 ・教職員の生徒理解に問題があるのではないかと感じるがありました。 ・生徒のどこに支援を行わなければならないかという実態把握が不十分なところがあるので、その実態を把握するために、教職員の創意と叡智にあふれた実践に取組んでください。
評価結果の分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・数値に頼り、根本的な課題や問題が明確になっていないところがあるように思います。 ・生徒の安心安全度が低かったことの質問に対して、詳細な分析結果を示していないと思います。 ・生徒の授業満足度を評価する指標と、体験学習の評価指標の満足度が大きく乖離するようなこともあるのではないかと思います。 ・教科と特別活動、それぞれの領域の充実を図るために、振り返りシートで授業の意欲や態度に関する自己評価と、体験学習の肯定的評価の満足度とをリンクさせて、評価結果の分析を適切に行ってください。
今後の改善方策の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方が学校を良くしていこうという気持ちを感じることができました。 ・生徒の安心安全度の向上について今後の改善策も説明が少なく、最も大切なことへの危機感が少ないように感じました。 ・行事への参加率をあげる対策も、生徒への呼びかけを工夫するというコメントだけで、行事そのものを参加しやすくするという視点が少ないと思いました。 ・生徒自らが考え実践していく生徒を育てるという目標を達成するために、教科と特別活動の領域が一体となった取組が、昨年と比較して図られていないように感じます。 ・組織的な取組を再構築する必要性が示されているので、今後も生徒や保護者、関係機関との連携を進めながら、学校経営の改善に取組んでください。
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2年前と比べて、様々な改善が順調に行われていると感じます。これからも教職員のベクトルを合わせて、学校という組織の中で、先生方が力を発揮することを期待します。 ・先生方が努力されて、尾道南高校の充実に努められていることを評価します。今後も尾道南高校の強みである、個別支援計画を組織的に行ってください。 ・時代の要請に応じて新しい社会を支える人材を作っていこうという熱意を感じますが、一方、世の中には多様な人材も必要で、南校ではそれぞれの個性とニーズに合った教育を行うことができるという利点を生かして、他の学校との差別化を図ることも重要と考えます。学業評価や他者との比較だけでなく、個人の学びの価値も認め、柔軟に対応できる体制を整えてくださることを期待します。 ・ミッションを実現するために、先生方が研鑽と創意を重ねておられることを評価します。 ・教職員が少なく、教育予算や施設面での制約も大きい中、合理的に活動するためにはこの年度末評価を活用し、学校経営の選択と集中を適切に行ってください。